

第64回インテリア設計士資格検定試験

<1級論文用紙>

<課題>

住宅のインテリアを計画する際に、家庭内事故防止や火災・地震等災害対策について、留意する必要がある点を三つ以上掲げその解決策を提案し、最後に「安住できるインテリアとは何か」あなたの考えを示して下さい。

(文字数は800字以上1,000字以内とする)

1/3

以下、課題である「家庭内事故や火災、地震
に対しての留意点」について論じていきます。
まず、主な家庭内事故として、①窒息②転落
転倒③溺死④やけど、の4つが挙げられます。
それらの中でも②転落転倒は、インテリアに
よる工夫次第で大きく減らせる項目です。で
は、②の原因について考えていきます。特に
どの年齢でも多い原因は「階段の段差を見誤
ったことによる転落」ではないでしょうか。
以上の対策として、転落を未然に防ぐため、
階段や段差のある玄関、浴室などに手摺を設
けることが有効であると考えます。手摺をつ
かんで行動することによって、身体のバランスがと
りやすくなります。また、浴槽内で立ち上が

100

200

れず座り込んでしまった時にも、潜り込みを
防ぐことができます。これは③溺死について
の対策にもつながります。また、動線を考慮
して家具の配置をすることも転倒の防止に繋
がります。しっかりとスペースを取り、コン
セントなどの位置を把握した上で家具を設置
していくことで、無駄な手戻りを減らし転倒
につながる「つまづき」を無くしていくこと
が出来ます。

300

400

次に、火災についての留意点を述べます。
まず、火災に気づくのが遅れ、巻き込まれる
のを未然に防ぐためには、火災警報器や煙探
知機の設置が有効です。ガスコンロを使用し
ているのであれば、安全装置付調理器具の使
用により火の消し忘れが防げます。また、火
災が起きてしまった場合には、炎の広がる速
度を落とす為、燃えにくい「防災カーテン」
や「防災カーペット」などを積極的に使用し

500

600

ていくべきだと考えます。火災は不注意による火の消し忘れ等以外でも起こり得ます。それは地震です。地震による火災に備え、揺れを感知し主幹ブレーカーを強制遮断してくれる感震ブレーカーの設置をしておくのも良いでしょう。引き続き、最後に地震について述べます。地震時に発生する火災の他にも、家具の転倒による怪我が挙げられます。避難が遅れてしまうことを未然に防ぐため、転倒防止金具で家具の固定をしっかりと行うことが大切だと考えます。緊急に備え床下点検口などに防災グッズを準備しておくことも重要です。家庭内事故や自然災害が多い中、災害を未然に防ぐため「常に備えのある暮らし」をすることにより、安住できるインテリアの実現が可能であると、私は思います。

700

800

900

1000